



防犯・防災

危機管理行政による ハザードマップについて



朝長 英美 議員

昨年の西日本豪雨で大規模冠水した岡山県倉敷市真備町においては、ハザードマップを作成していたにもかかわらず、住民に理解されていなかったために多数の犠牲者が出た。本市においてもハザードマップが作成されているが、住民への説明会は開催されているのか。また、静岡県袋井市にある命山という災害時の避難丘を本市にも取り入れる計画はないか。

答 ハザードマップの住民説明会という形ではないが、土砂災害のハザードマップについて、県による土砂災害等の区域指定の公表の際に公民館等で縦覧を行い、地元への説明の機会を設けている。また、自主防災組織の訓練においては、住民がハザードマップの内容を確認するとともに、地域防災マップの作成を行い、自分の住む地域を理解し、災害に備えていただく取り組みを行っている。また、議員の地元の福重地区における命山のような避難場所は、妙宣寺が最適と考える。

市政 一般質問

3月定例会では、17名の議員が質問を行いました。主な内容をご紹介します。

索引

防犯・防災……………p8	教育・文化・スポーツ…p11～12
生活・環境……………p8～9	都市整備……………p12～13
福祉・医療・保健…p9～11	行財政・一般……………p13～16
産業・経済・労働…p11	

生活・環境

自然のサイクル回帰を図り 循環型社会へ



中瀬 昭隆 議員

古来から生ごみやふん尿は有機肥料であり、循環型農業であった。乾燥下水道汚泥や浄化槽汚泥を生ごみから作った堆肥と混ぜ、それを使った農業を行えば自然に優しい農産品の一大ブランドとなる。市内に堆肥化事業所もあるので情報交換し、次期ごみ処理施設は焼却炉と生ごみ堆肥化施設との併設を望むが、市の見解について尋ねる。

答 現在、一般廃棄物の収集・運搬に年間約1億円の経費がかかっており、生ごみの堆肥化のために燃やせるごみと生ごみを別々に収集する場合、その経費が約2倍となり、市民にとっても分別の手間が増える。また、焼却炉と生ごみ堆肥化施設の併設には、多くの建設費と新たな建設用地が必要となる。以上のことから、生ごみの堆肥化施設の併設はハードルが高いと考える。また、下水道汚泥については、市内の処理施設がある民間事業者へ搬出し、堆肥化を行っており、循環型農業の1つとして取り組んでいる。

生活・環境

避難施設である出張所の 施設改善をすべきだ



水上 亨 議員

出張所の冷暖房設備は老朽化し、セントラル方式での稼働のためにロスを生じている。平成31年度に実施される整備改修においては、各室個別方式で、コイン投入型の空調設備にすべきだ。また、全室の窓ガラス押さえゴムの劣化も著しいため、コーキング剤での補修を早急に行い、強風雨に耐える安心して利用できる避難施設にすべきである。

答 出張所の改修工事については、現在、屋上防水・外壁改修と空調入れ替え工事を順次計画的に行っているところである。コーキング剤での補修など、今後、随時出張所の状況を確認・調査しながら、市民の利用に支障がないよう維持管理にしっかり努めていきたい。



注1…台風や津波で地域が浸水したときに、住民が避難するために作られた、人工高台の通称。

